

くるみん認定企業など12社

9月25日拡大RMB

大阪新卒応援ハローワークは9月25日午後1時から「拡大版RMB（レギュラーマッチングブース説明会・面接会）with くるみん認定企業就職フェア」を開く。女性の活躍を巡っては企業に女性の登用を促す女性活躍推進法が成立した。女性の採用比率や管理職の割合に数値目標を設定し、公表を義務付けているのが特徴だ。今回のRMBには、くるみん認定企業3社を含め男女が共に活躍できる企業計12社が集結する。ぜひ各ブースで話を聞き、積極的に応募して欲しい＝写真⑧は8月26日の拡大RMBで受付業務を担当するインターンシップ生⑧。



子育てサポート企業の証

「くるみん」は企業が従業員の仕事と子育ての両立への行動計画を実施した結果、一定の要件を満たし、厚生労働大臣の認定を受けた場合、商品などに表示できるマークだ。厚生労働省はこのほど、次世代育成支援対策推進法（次世代法）の改正に伴い、新しい「くるみんマーク」＝写真⑧と「プラチナくるみんマーク」＝写真⑨を作成した。「新くるみん」は、認定を複数回受けている企業を評価し、取得回数が一目で分かるよう回数に応じて星が増えていくデザインに。「プラチナくるみん」は、くるみん取得企業のうち、さらに両立支援が進んでいる企業が一定基準を満たし特例認定を受けた場合に表示できるマーク。マントと王冠を付け、取得企業よりも両立支援の取り組みが進んでいることを表現した。

両立支援制度セミナーも25日

就職前に知っておくと役に立つ「両立支援制度セミナー」が25日午前10時半から、RMBに先立ち大阪新卒応援ハローワークで開かれる。

セミナーは2部構成で「仕事と家庭、両立の方策は」「子どもが生まれたら仕事はどうすれば」といった疑問に答える。くるみん認定企業やどんな制度があるかを知るミニ法律講座に続き、くるみん認定企業である関西アーバン銀行が、自社での両立支援の取り組み事例を報告。制度の概略を踏まえ具体事例が理解できる構成となっている。

既卒、在学生いずれも参加できる。定員は20人で事前の予約が必要となる。参加希望者は大阪新卒応援ハローワーク。電話06（7709）9455へ。



今回は拡大版の第6弾。2016年3月卒業予定の大学・大学院、短期大学、専門学校等の新卒と既卒者（第2新卒）が対象となる。
当日は午後1時、2時、3時、4時、5時の計5回、企業側が事業内容や採用フローなどを説明する。1回45分の完全入れ替え制で、途中の入退室はできない。当日、履歴書は不要で服装も自由。説明

会の終了後、希望者にはハローワーク紹介状を発行する。
参加企業は、社会福祉法人ほしの会特別養護老人ホームライフライト（介護）▼大阪いずみ市民生活協同組合（福祉）▼ホシザキ阪神（営業、技術サービス）以上、くるみん認定企業。そのほか、成都グループ（成都不動産、成都賃貸ホームズ・ルームアドバイザー）▼生和コーポレー

ション（事務、企画提案営業、建築施工管理）▼梶原産業（営業）▼アンテリイベ（ウエディングドレスコーディネート、ショーアップ営業）▼日住サービス（営業）▼エレコン（事務幹部候補）▼東京リーガルマインド（総合職として学校運営、商品企画、営業管理部門）▼京阪互助センター（総務職として営業所長候補、募集スタッフ、冠婚スタッフ）▼日本PCサービス（総合事務、企画営業、ヘルプデスク、プログラマー）。
前回の参加企業によると、あいさつや言葉遣い、人柄、熱意を重視し選考していると。ぜひ参考に。

女性活躍推進法成立、採用や登用に数値目標

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省 大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル18階
TEL 06-7709-9455
FAX 06-7709-9458
http://osaka-young.
site.mhlw.go.jp

第23号

2015年9月16日

大阪新卒応援ハローワーク



2 インターンシップ生体験を手記に
4 モラブ阪神で活躍女性採用担当に聞く

シオン（事務、企画提案営業、建築施工管理）▼梶原産業（営業）▼アンテリイベ（ウエディングドレスコーディネート、ショーアップ営業）▼日住サービス（営業）▼エレコン（事務幹部候補）▼東京リーガルマインド（総合職として学校運営、商品企画、営業管理部門）▼京阪互助センター（総務職として営業所長候補、募集スタッフ、冠婚スタッフ）▼日本PCサービス（総合事務、企画営業、ヘルプデスク、プログラマー）。

大阪新卒応援ハローワークは8月24日から5日間、インターンシップ生を受け入れた。参加したのは立命館大学経済学部3回生の男性(21)だ。公務員志望で試験に向けて日々、いそしんでいる。職業体験では、求職データの入力や会社訪問による求人の開拓、企業の面接会・説明会のレギュラーマッチングブースの受付などをこなした。また、同所を利用する学生たちにインタビューし、就職活動の現状や課題、志望する仕事への思いを聞いた。先輩たちの奮闘する姿を見て何を感じたのだろうか=写真は就活生にインタビューするインターンシップ生④。

あいさつや礼儀、コミュニケーション能力磨け



大阪新卒応援HWにインターンシップ生

生は自己PRで経理のアルバイトの話をしてしたが、この経験を具体的にどう仕事に生かしたいかまでは、言及がなかった。

先日、ジョブサポーター(JS)に同行しある土木建築会社を訪問した。そこで採用担当者と直接、話をする機会を得た。その中で強調していたのは「面接では、何も百点満点の回答はいらない。仕事に対するやる気と、一から勉強したいという意欲があるか」という点だった。採用担当者

皆さまこんにちは。今号では、大阪新卒応援ハローワークのインターンシップに参加した大学3回生の5日間の体験記や前年度にこのインターンシップに参加した学生の就活について掲載しています。大阪新卒応援ハローワークには他にもインターンシップに参加している学生等

インターンシップの経験、就活に生かす

が見学に来られます。現在就活中の皆さまの中にもインターンシップを経験した方もおられると思います。せっかくの経験です。今の就活に役立つことも多くあると思います。1年前を振り返りその就業体験をぜひ就活に役立ててください。どんなことでも相談に乗ります。いつでも大阪新卒応援ハローワークにお越しください。

就活、まず自分から積極的に行動を

公務員志望の私は8月24日から5日間、職業体験として大阪新卒応援ハローワークのインターンシップに参加した。セミナーの受付業務や会社訪問による求人開拓、求職票のデータ入力作業などを通じ垣間見た就活生の現状と課題について、感想を交えて報告する。

同所の職業興味検査セミナーでは、参加者が5人一組でグループを作り、自己紹介や自分の性格について数分間話すという機会があった。

例えば「定期試験の準備は2カ月前から始め、単位の取得も順調だ」「古文書を研究しており、先日も遠方までフィールドワークに出かけた」とい

う大学生がいた。だが、話は一様に事実に触れるだけで、具体性を欠くと思われた。

その理由は何か。それは、自らの経験を仕事にどう生かせるのか、目指す仕事にどう貢献できるのかについて詳しく述べられていなかった。

この傾向は模擬面接のセミナーでも見られた。ある就活

生は自己PRで経理のアルバイトの話をしてしたが、この経験を具体的にどう仕事に生かしたいかまでは、言及がなかった。

先日、ジョブサポーター(JS)に同行しある土木建築会社を訪問した。そこで採用担当者

と、資格は有利になるというくらいで、一般常識さえあれば仕事上、問題はないと知らされた。むしろ一番大切なのはあいさつなどの礼儀や、人の意見に耳を傾けるというコミュニケーション能力だ、と気付かされた。

これから始まる就活をより良いものにし、内定を取るためには何が必要だろうか。

まずは自分から積極的に行動することだ。そして明確な目標を立て、それに向かってどう行動していくか。しっかりと考え抜くことだ、と思う。

同所での就業体験を通じて私は、1年早く就職活動を体験できた。この5日間で学んだ経験を、来年の就活や今後の人生に生かしていきたい。

昨年のインターン生、労働基準監督官試験 最終合格者に

昨夏、大阪新卒応援ハローワークのインターンシップに参加した私立大法学部の女性(22)＝写真手前＝が労働基準監督官試験の最終合格者になった。アルバイト先での違法な職場環境に疑問を持ち「若者が安心して働ける職場環境づくりに公務員として少しでも貢献したい」と志望した。

大学では労働法を専攻。アルバイト先の飲食店は違法残業が常態化し、社員は疲れ切った表情で働いていた。「なぜこんな働き方をしなければならないのか。何とか是正できないか」との思いが募り、労働行政、取り分け労働基準監督官への志望が高まった。

インターンシップでは、求人開拓や求職者データの管理のほか、プール学院大学・短期大学の学生による就活クラブを取材。働く意味や就活での課題など学生の生の声をインタビューで引き出した。

私大法学部 労働法専攻の女性

「就活が上手くいかず戸惑う学生や、不採用からやる気を失いつつある学生もいた。そんな彼らの思いに答えられる仕事に付きたいと改めて思った」。

わたしの就活日記 22



特に参考になったのは就活生に接するJS(ジョブサポーター)の姿だったという。

「学生一人一人と向き合い、きめ細かいサービスを提供している。親身に寄り添い、時には面接練習で、だらだらとした話が続けば『何が言いたいのか』と厳しく指摘

働くイメージから志望動機作成

する。そんな姿を見て、自分がここで働くイメージができた。これが具体的な志望動機につながった」と振り返る。

一方で公務員試験は孤独な戦いでもある。「図書館に籠りコツコツと問題集を解いた。早々に民間企業に決まった友人を尻目に、私は公務員一本に絞り退路を断った。不安だったが、やるしかない」。

参考になったのは面接対策だ。「髪型などの見た目や声のトーンなど女性としての所作を学んだ。面接官への目線、語尾を伸ばさない、扉の開け方にも気を配る。JSのアドバイスで、面接への意識がより高まった」。

就活で大事なのはスタートダッシュだ、という。「3回生からHWのセミナーに参加すれば、高い意識で就活に臨める。『愚痴でもいいから窓口においで』との言葉に勇気づけられた」と振り返る。

Q 「正社員として働きながら、司法書士を目指す。無謀でしょうか」

法曹を志望する方からこんな相談をよく受けます。働きながら国家試験の勉強を両立させる道を選んだ方の事例をご紹介します。(JS 木村)

「司法書士になり、困っている人や社会的な立場の弱い人を助けたい」。24歳・アルバイトの男性が初めて相談窓口を訪れたのは、今年8月末のことだ。大学は法学部で、司法書士を目指していた。

だが、満を持して臨んだ国家試験はあえなく失敗。その後、民間企業向けに就活を始めるも、希望する企業から内定は得られず2014年3月、卒業した。

あれから1年半、法律事務所勤務のアルバイトをし夢を叶える努力を続けてきた。担当は交通事故に関わる分野だ。「ここでのバイトは将来への修行」。自らこう言い聞かせ、先輩の仕事ぶりを参考に実務経験を積んできた。

この間にも就活は水面下で継続。法律の知識が生かせる人事や総務の仕事を探し、コツコツと応募書類を送っていた、という。

だが、面接は最終まで残るも、結局は不採用に。やがて応募書類の通過率も下がりはじめ、徐々に焦りも出てきた。

大学時代の友人たちは既に正社員として就職し、企業で活躍している。

「それに引き換え自分は何をしているのか。国家試験の勉強も中途半端。こんな状態でいいのか」。眩しく見える友人たちをよそに、自問自答の日々が

続いた。

そして彼なりに辿り着いた結論は「司法書士は諦めない。その一方で、正社員として働きながら受験勉強ができる仕事に就く」という、よりハードな決断だった。

卒業から既に1年半。本当に正社員として雇ってもらえるのだろうか。勉強との両立はできるのか。半面「ここで諦めたらこれまで費やした時間と努力は全て水の泡になる。ならば、気持ちを強く、やれるだけやってみよう」。自らを追い込み、奮い立たせ決断したのが、この二足の草鞋だった。

ただ、もはや新卒とは違う立場だ。空白の期間についても面接で聞かれるだろう。だから、就活対策については、より慎重に考えた。

求人票は一つ一つ内容を精査し、これまでの勉強やアルバイトの経験が生かせる職種に絞った。JS(ジョブサポーター)からは「応募書類には前向きな言葉を使って」とのアドバイスをもらい、納得できるまで文章の添削と面接練習に勤しんだ。

「これまで培ってきた法律の知識や実務経験を生かして欲しい。ぜひ、ウチに来て欲しい」。

ある交通関係の共済組合から電話が鳴った。「これが内定通知か」。安堵で全身の力が抜けた。

初志貫徹。自分を信じて努力すれば結果は付いて来る。そう確信できた。道半ばだが、大きな一歩が踏み出した。

お悩み相談

自分を信じ、初志を貫けるか。気持ちの強さカギ

「モラブは幅広くいろいろな仕事に出合える場」

「面接で重視する点は言葉のキャッチボールができるかだ」一。ハローワークを通じ就職、モラブ阪神工業の採用担当に。「多くの就活生との出会いが喜び」と語る。自身も就職活動では苦杯をなめた。就活生の気持ちに寄り添い、共感できるのが強みだ。「面接は気負わず、普通に言葉を交わして欲しい。素直に臨むことを心掛けて」とエールを送る。

モラブ阪神工業 人材開発部・23歳女性

「言葉のキャッチボールができるか。面接で重視するポイントだ。こちらの質問意図を理解し、普通に言葉を返してくれるかどうか。こちらの目を見て話しているか。第一印象を見極めるためだ。自分が『この人だ』と思った方



手企業から内定が出るとそちらに流れてしまう。内定者には頻繁に懇談会を開き、学生の気持ちが離反しないよう努めている」と苦心の様子。「私も昨年まで同じ就活生だった。彼らの心情は良く分かる。多くは入社後の仕事について不安をお持ちだ。具体的に仕事のイメージが湧くよう、各部門にいる同期の仕事ぶりを話している」という。

出身は埼玉県。成城大学を卒業するも就活はせず、お菓子の専門学校に入る。「子どものころからお菓子作りが趣味。本格的に学べる機会は今しかない」と寄り道した。卒業し製菓衛生師

がヒットした。採用枠も広く、給与の条件も良かった」。さっそくHWでの説明会に参加。

「説明会は少人数。担当者の話も分かりやすく、気軽に質問できた。モラブの特長は事務や営業からPG・SEまで幅広くいろいろな仕事に出合える点だ。研修もしっかりしており、未経験者でもCADを働きながら学ぶ環境が整っている。そこが魅力だった」と話す。

面接では、コミュニケーション力と接客の経験をアピールした。「専門学校には幅広い年代の方とグループ制作に携わった。ケーキ店では調理と接客の両方を担当した。一人で店舗を切り盛りするなど、周りを見て臨機応変に

「失敗もあるが、まずはやってみよう。できることから挑戦を」

が採用に至ると、人事担当としてうれしいものです」。

モラブ阪神工業で人事・採用を担当する23歳女性＝写真＝は面接でのチェックポイントをこう強調した。同社は電気や電子、機械、情報システム、建築土木などの専門技術に特化した総合エンジニアリング企業。昭和58年に設立された技術者集団だ。（大阪市北区梅田1-11-4-500 大阪駅前第4ビル5階18号 TEL：06-6341-8237）

人材開発部の主な業務は面接や会社説明会の開催。学校訪問は今年5月から始めた。担当する大学や専門学校、高専など50校に足を運ぶほか、大阪新卒応援ハローワーク（HW）のレギュラーマッチングブース（RMB）面接会・説明会にも姿を見せる。

「1日に3、4校は回る。キャリアセンターを訪ね、学内説明会の枠があれば参加をお願いする。理工系の場合は教授を訪ねる。各教授には、学生の就職動向や、弊社に関心のある学生はいないかを尋ねる」。

今年の就活は日程が変わり、就活生と企業側双方から戸惑いの声を聞く。

「特に理工系は人材が足りない。大



阪の資格を取得するも「ケーキ店でアルバイトを経験したが、体力面できつかった。趣味を仕事にするのは違う」と分かり、事務職志望に変えた。

関西での就職は「地域に拘らず幅広く探そう」との思いから。「地理も不案内で最寄り駅を検索しても、分からない。やっぱり大阪は違うなあ。HWの担当者に逐一、場所を聞いた」

会社選びは休みや福利厚生面を重視した。「求人を検索したら『モラブ』

対応することを学んだ」。社長面接は緊張したが、話しやすい雰囲気でも緊張もほぐれた。面接終了後、「採用の方向で考えている」と伝えられ、ほっとした。今年3月末のことだ。

入社は4月1日。マナー研修の後、予想外の人材開発部に配属される。同期入社は40人でうち8人が内勤だ。

希望の事務職につくも初めは試練の毎日だった。「メールを送るにも、添付を忘れたり」。電話はさらに恐怖だった。「業務内容が分からないため受話器の前で思わず手が止まり、尻込みしてしまう。お客様からは怒られるし、どう対応すればいいのか…」。

その時感じたのは、気持ちを切り替える大切さだ。「失敗もあるが、徐々に慣れる。とりあえずやってみようという気持ち」。それを大切にして乗り越えた。

今、就活生に伝えたいのは、だめでもいい。まずやってみることだ。「私も今年3月まで就職が決まらず、この先、どうなるのだろうか悩んだ。ただ、自分で視野を狭めたら、チャンス自体も逸してしまう、と分かった。まずはできることから挑戦して欲しい」。